



『認知症患者予測の下方修正と 軽度認知障害』



しもじ内科クリニック院長
下地 栄壮



先日、65歳以上の高齢者がピークを迎える2040年に高齢の認知症患者が584万人で約7人に1人の割合になるとの推計が厚生労働省から発表されました。前回調査(2014年度)では802万人(約5人に1人)と推計されており、218万人も減っています。

厚労省の研究事業として将来推計を行った二宮利治教授(九州大大学院)は、**減少した要因**として以下の理由を挙げています。

- 減塩推進や降圧薬の普及
- 高脂血症薬による治療の普及
- 女性糖尿病患者の減少
- 日常的な栄養管理や運動など健康意識の向上
- 成人の喫煙率の減少



また、認知症予備軍とされる軽度認知障害(MCI:Mild Cognitive Impairment)患者の推計が初めて発表されました。2025年に564万人、2040年に613万人に上ると推計されています。

MCIとは、認知機能に問題があるが日常生活には支障がない状態で、もの忘れと認知症の中間と捉えられています。

MCIの定義

1. 年齢や教育レベルの影響のみでは説明できない記憶障害が存在する
2. 本人または家族によるもの忘れの訴えがある
3. 全般的な認知機能は正常範囲である
4. 日常生活動作は自立している
5. 認知症ではない



MCIを放置すると1年間で約10%の人が認知症に進行するとされています。しかし、MCI全ての人が認知症に移行する訳ではなく、認知機能が正常に戻る場合もあれば、ずっとMCI状態を維持している場合もあります。生活習慣病の管理、禁煙、栄養管理、運動の継続、他人とのコミュニケーションをとることで、認知機能の改善や維持を図りましょう。

お知らせ

6月1日(土)は学会出席のために**13時までの診療**とさせていただきます。大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんが、宜しくお願いいたします。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)
TEL:092-605-6300